

バンコクで昇龍道 物産観光展を開催

～中部・北陸9県の名産食品販売と観光PRを実施～

中部経済連合会と中部広域観光推進協議会・中部・北陸9県が一体となり、各地の名産食品と観光をタイの消費者の皆様にPRするため、バンコク伊勢丹で「昇龍道 物産観光展」を開催しました。

1. 昇龍道プロジェクトについて

『昇龍道プロジェクト』は、海外における中部北陸圏の知名度向上を図り、インバウンドを推進するため、中部・北陸9県の自治体、観光関係団体、観光事業者等が協働するプロジェクトとして、中部運輸局、北陸信越運輸局及び中部広域観光推進協議会が中心となって取り組んでいます。

2012年度の発足からこれまでに中国・台湾・香港やシンガポール・タイ・マレーシア・インドネシアで観光プロモーションを実施してきました。

2. 昇龍道 物産観光展について

この取り組みを物産に拡げていくため、昨年からは昇龍道 物産観光展の開催に取り組んでおり、今年はバンコク伊勢丹の食品フロア新装開店に合わせ、11月下旬～12月上旬に、各県から参加した23社が出展した菓子類や調味料、漬物、果物などについてPR販売を行いました。売り場に立っていると、週末に次郎柿が完売したり、飛騨牛のイートインで炊飯が間に合わなくなったり、乾物珍味をカゴいっぱいにも買われる方がいたり、質の高い日本食品の人気の高さを感じました。

また中部広域観光推進協議会が設けた観光PRコーナーにも、訪日観光情報を求める多くの方が立ち寄られるなど昇龍道地域への関心も好調な様子でした。

この他にプレス向けの試食会や、地元の輸入事業者等を招いた商談会も開催され、単発の物産展で終わらせないために活発な売り込みが行われました。



プレス試食会での記念撮影

3. 参加された方の声

今年初めて参加した事業者からは、「バンコクでは日本の食材が普通に売られているし、和食レストランも多く、和食は十分受け入れられていることが分かった。一方で日本から輸出した食品は販売価格が日本の2倍以上になるため、現地で生産される安価なものとの違いを実感できるよう工夫して販売拡大に繋げていきたい」と話されていました。



記者会見で試食された名産品



商談会の様子

(福田駐在員 長野県派遣)